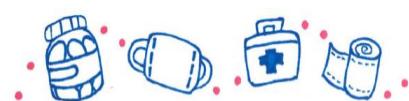




保健のページ



今年も残すところあと少し。2025年は健康に過ごせましたか？2026年も元気に過ごしていきましょう！

みなさんは、風邪をひいたときに薬を処方されることも多いと思いますが、風邪には【抗生物質】が必要だとと思われますか？

約半数ほどの方は抗生物質を希望するという調査結果があるのですが、実は風邪には抗生物質は効きません。抗生物質は、細菌に効く薬です。一般的な風邪・インフルエンザ・コロナウイルスは、ウイルス感染症であるため、抗生物質は効きません。

抗生物質は、不適切に使用することでリスクの方が高まります。

代表的な問題としては、「耐性菌」という薬の効かない細菌が増えてしまうことです。

耐性菌が増えることにより、本当に必要なときに抗生物質が効かなくなっている可能性があり、社会的な問題に発展するかもしれません。

ある調査によると、将来的には癌での死者よりも、耐性菌での死者が上回ると予想されています。

抗生物質は、適切に処方してもらい、しっかり飲み切るようにしましょう。

【年末年始の急病の診療について】

京都府の小児救急医療体制・医療機関は以下の通りです。

連絡をし、受付時間を確認してから受診してください。

- 宇治徳洲会病院 0774-20-1111
- 京都田辺中央病院 0774-63-1111
- 京都きづ川病院 0774-54-1111

【受診するか迷うときは・・】

① #8000(こども医療電話相談事業)をご活用ください。子どもの症状に対し、どのようにしたらよいのか、病院を受診した方がよいのか、小児科医・看護師に電話で相談が出来ます。

② こどもの救急(ONLINE QQ)のウェブサイトをご活用ください。

診療時間外に、病院を受診するかどうか、判断の目安を調べることが出来ます。

対象年齢は生後1ヶ月～6歳までの子どもです。

【インフルエンザ脳症】

好発年齢は乳幼児から学童期の子どもです。日本では、インフルエンザ脳症の約7割は4歳以下で占められています。特に持病のない健康な子どもにも起こる点が怖いところで、後遺症が残ることもあります。

主な症状としては、急激な意識障害/けいれん/異常行動などが表れます。

インフルエンザにかかっている子どもからは目を離さず、異常があれば通院しましょう。

看護師より

